

JST「さくらサイエンスプラン(SSP)」 インドで幹事主体の 第二回さくらサイエンスクラブ(SSC)同窓会

科学技術振興機構(JST)は2014年に「さくらサイエンスプラン」(SSP)事業をスタートし、2019年度末までの6年間で世界41カ国・地域から3万3000人以上の招へいを見込んでいた。

インドからは累計約2900人の優秀な若手理系人材を日本に招へいし、招聘者総数は、中国を筆頭に全体で3番目の規模となっている。JSTでは、SSP事業を通じて生み出されるグローバルな人材ネットワークに大きな価値を見出し、そのネットワークを一層拡大かつ強化することを目指し、参加した主要国で現地SSP同窓会(さくらサイエンスクラブ・SSC)の本格的な立ち上げを進めている。これまでに、インド(2018年10月)、スリランカ(19年2月)、ベトナム(同3月)、マレーシア(同10月)、インドネシア(同12月)等で本格的な現地同窓会を開催したが、今年2月15日にはインド・ニューデリーのインド工科大学(IIT)デリー校において、現地の幹事会主導により第2回インドSSC同窓会を開催した。



参加者全員で記念撮影

SSC同窓会幹事会

同窓会の開催に先立ち、15日午前中に、同窓生の中から同窓会幹事(コーディネーター)に立候補した10名が会場に集合し、現在の4名の幹事(うち2名は日、独(留学中)に加えた新幹事の選出と新幹事会における役割分担が行われた。主幹事は、引き続きインド科学教育研究大学ブネー校の准教授で、2017年に「さくらサイエンス一般公募プログラム」で大阪大学を訪問したジーテンダー氏が担当し、新たに加わった幹事10名と共に、同国同窓会を運営・維持することが決まった。

第二回同窓会の開催

幹事会に続き、第二回同窓会は同日午後1部、パート1、パート2の二部構成で開催された。同窓会にはインド各地から出席したSSP訪日経験者(同窓生)を含めて総勢約90名が参加し盛大な同窓会となった。



【写真④】ジーテンダー准教授



【写真②】鈴木駐インド大使



【写真①】沖村JST首席フェロー



【写真⑤】ミシュラ局長



【写真③】チャンサン次官補

パート1は、主幹事のジーテンダー氏とSSPの生みの親でもあるJST沖村憲樹上座フェローの歓迎の挨拶



【写真⑨】ポスターセッション表彰式にて



【写真⑥】同窓会での発表を聴講する参加者
【写真⑦】ポスターセッションの表彰式から始

で始まり、鈴木哲在インド日本国大使の挨拶に続いて、インド側からは人材開発省のチャンサン次官補と科学技術省のミシユラ局長の2名が挨拶し、SSP事業への謝意と日印関係の重要性が強調された(写真①～⑥)。ゲスト挨拶に続いて、当日結成されたばかりの12名の幹事団メンバー全員が自己紹介した。パート1の最後にはSSP訪日経験者(同窓生)による高校生ポスターセッションが行



IITデリー校の風景

と重要な役割を果たしている。科学技術協力の発展のため、関係の強化と地域の友好関係の確立を目的として、アジアを中心とするSSP対象国・地域と日本を確立する。SSPは、アジアを中心とするSSP対象国・地域と日本を確立する。SSPは、アジアを中心とするSSP対象国・地域と日本を確立する。

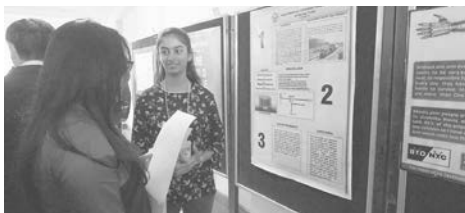
SSPの将来に向けて

JSTとしては、各国・地域の現地同窓会を活性化し、同窓生メンバー相互に



【写真⑩】懇親会

【写真⑩】懇親会
【写真⑧】賑わったポスターセッション



【写真⑦】ポスターセッションで発表する高校生



【写真⑧】賑わったポスターセッション

席フェローより賞状を贈呈(写真⑨)。表彰式後、インドのSSP訪日経験者(同窓生)代表6名により、SSP体験や日本での思い出を語ってもらい、最後にはIITデリー校のスタンダードル教授